

前書き

日本臨床神経生理学会では1979年に「脳波・筋電図用語集」(当時、日本脳波・筋電図学会)を発行し、その後1991年と2015年に2度の改訂を行っている。新たな臨床神経生理学用語集の制作は理事会承認を経て2023年度の事業計画に盛り込まれ、約2年間の精力的な改訂作業ののち「日本臨床神経生理学会用語集 2025」として完成した。今回の改訂では時代とともに変化する用語を網羅的に集約した上で、過去の用語集と対比させ、全ての用語について採否を検討した。「日本臨床神経生理学会用語集 2025」には、二つの大きな特徴がある。一つは本学会が多分野の会員で構成されているため、分野ごとに見解が分かれる一部の用語は、あえて本学会として見解を統一せずに掲載していることである。もう一つは、全ての用語がデジタル化されデータベースとして精密に整理されたことである。

今回の改訂は理事長、庶務理事、理事会幹事が中心となり、必要に応じて理事ならびに各分野の専門家にご意見をいただいた(下記の通り「肩書・敬称略」)。

池田昭夫, 今井富裕, 金村英秋, 川合謙介, 国分則人, 後藤純信, 酒田あゆみ, 佐々木一朗, 神一敬, 園生雅弘, 高木俊輔, 立花直子, 谷口慎一郎, 津田笑子, 野寺裕之, 橋本修治, 長谷公隆, 花川隆, 花島律子, 馬場正之, 正門由久, 松本理器, 吉村匡史

「日本臨床神経生理学会用語集 2025」の目的と概要は次のように要約できる。

- 1) 2015年版用語集の改訂という位置づけである。
- 2) 本学会が多分野の会員で構成されているという特性を考慮し、分野ごとに見解が異なる用語は統一せずに全て掲載している。
- 3) 領域として、基礎生理学、医用電子、誘発電位、脳波、脳磁図、睡眠、脳刺激法、体内埋設型神経調節装置、小径線維、筋電図、モニタリング、神経筋超音波、画像を設ける。
- 4) 推奨される用語とその使用法を定めることを目的とし、用語の解説を目的にはしない。
- 5) 論文作成、学会発表の際の用語使用のガイドライン、専門医・専門技術師および認定医・認定技術師の試験の際の用語使用のガイドラインとして用いる。
- 6) 本用語集は今後の改訂の礎となるようにデジタル化されたデータベースとして活用する。

「日本臨床神経生理学会用語集 2025」の改訂作業は以下のように要約できる。

- 1) 2015年版からの用語の抽出と新たな用語の追加を本学会の各種委員会を中心に実施した。
- 2) 1)の原案を理事ならびに各分野の専門家で審議し、凡例で示す基準に基づいて用語の

採否を決定した。

- 3) 「日本臨床神経生理学会用語集 2025」は 2015 年版と同様に、採用された用語をあいうえお順で示すセクションと ABC 順で示すセクションの 2 部で構成した。

「日本臨床神経生理学会用語集 2025」は本学会のホームページから自由にダウンロードできるが、本学会に無断で用語を書き換えて流布するような行為は厳に慎んでいただきたい。「日本臨床神経生理学会用語集 2025」が臨床神経生理学領域の用語を検索する際に汎用され、論文作成時の手引きとして活用されることを切に願うものである。本用語集に万一不備がある時は本学会事務局に御連絡いただければ幸いである。今後は急速に進化・発展する学問の状況に対応するため、データベース化された「日本臨床神経生理学会用語集 2025」を礎として、これまでよりも短い周期で用語集が改訂されていくことを期待している。

日本臨床神経生理学会
理事長 今井富裕